

令和2年度 第3回掛川市総合計画審議会 議事概要

日時	令和3年1月18日(月) 9:00~10:00
会場	掛川市役所4階 会議室1

■出席者（敬称略）

No	氏名	所属・役職等	出席状況
1	日詰 一幸	国立大学法人 静岡大学 人文社会科学部長	出席
2	小川 雅子	公益社団法人 大日本報徳社 主事	出席
3	幸田 拓也	日本電気株式会社 PS ネットワーク事業推進本部 国内スマートシティグループ	出席
4	齊藤 奈津子	島田掛川信用金庫 地方創生室 副室長	出席
5	鈴木 緑	掛川市社会教育委員会 委員長	出席
6	須藤 みやび	一般財団法人 静岡経済研究所 主任研究員	出席
7	高橋 由利子	静岡県くらし・環境部県民生活局男女共同参画課 課長	出席
8	垂門 涼子	ソフトバンク株式会社 東海 IoT エンジニアリング本部 東海 IoT 技術部 部長	出席
9	長濱 裕作	NPO法人 かけがわランド・バンク コミュニティマネージャー	出席
10	星之内 進	一般社団法人 中東遠タスクフォースセンター 理事長	欠席
11	増山 達也	公益財団法人 静岡県産業振興財団 統括事業プロデューサー	出席
12	宮地 紘樹	医療法人社団 綾和会 掛川東病院 院長	出席
13	村上 文洋	株式会社 三菱総合研究所 主席研究員	出席
14	山本 たつ子	社会福祉法人 天竜厚生会 理事長	出席
15	山本 美鈴	株式会社 山本製作所 専務取締役	出席
16	横地 静雄	掛川市地区まちづくり協議会連合会 会長	出席

発言者	発言内容
1 開 会	
2 市長あいさつ	
市 長	<p>本日は、掛川市総合計画審議会にお集まりいただき、ありがとうございます。</p> <p>新型コロナの状況を踏まえ、市外の皆様にはオンラインでの参加にご協力いただき、重ねて厚くお礼申し上げます。</p> <p>掛川市のコロナの感染状況ですが、昨日が15人、この一週間で40人近い感染者で大変心配をしておりますが、クラスターのような状況ではなく、感染経路の把握ができております。ただ、大変な感染者数ですので、危機管理を考え、本日、副市長は自室からリモートで参加させていただいております。</p> <p>掛川市では、2月1日から、コロナワクチンの市民への接種を実現するという意味で、対策係を設置することで進めております。あわせて、検査キット1万個を市民に配布し、感染対策に役立てていただこうと考えております。何をどうすればどうなるのかわからない中で、当面、基礎自治体としてできることを進めていこうと考えております。それから、経済的な面では、掛川市は飲食店が大変多く、非常事態宣言を発しなくても、ここ一週間程度の飲食店の来客者が激減していると聞いており、経済が大変難しい状況となっています。ただ、行政としては、今の段階では、感染防止、感染者を抑える、ここを最重要と考えて取り組みを進めていきたいと思っておりますが、市民の方からは色々なご意見も出ております。そのような状況の中で、このポストコロナ時代の総合計画の改定を進めていかなければならないと思っておりますので、皆様のご意見をしっかりといただきたいと思っております。</p> <p>昨年10月にこの審議会を立ち上げ、限られた時間の中ではありましたが、市内外のさまざまな分野における有識者の皆様から有意義なご意見をたくさんいただき、ポストコロナ社会における掛川市の目指す姿についてご審議いただき参りました。</p> <p>本日は、この総合計画審議会に、第2次掛川市総合計画の基本構想改定案を諮問させていただきます。皆様におかれましては、これまでのご経験や専門的な見地から、活発なご議論をご期待申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。よろしく願いいたします。</p>
3 会長あいさつ	
会 長	<p>この会場においでの皆様、そしてリモートでたくさんの委員の方にご出席をいただきありがとうございます。</p> <p>今、市長からお話がありました通り、コロナの第3波が大変なことになっております。私も昨日、初めての形態の大学入学試験の監督の総括をいたしまして、県内では何事もなく終了したということになっておりますが、昨年は4月に休校措置もあり、第1日程と第2日程を設け、昨日と一昨日で受験できなかった生徒たちは第2日程で受けるか、再試験であるとか、本当に異例のことが続いています。</p> <p>本市の総合計画審議会についても、リモートを通じてやるということで、ひょっとしたらこれがこれからの新しいやり方になるのかもしれませんが、こうした状況に早く慣れて、ポストコロナ社会におけるこれからの在り方について、皆様で考えていただくことができればと思っております。</p> <p>今日は、基本構想改定案についての諮問を受けて、それをもとにしながら基本構想をまとめていきたいと思っております。基本構想の審議につきましては、今日で一応終わりということになるかと思っておりますが、本日はコロナの感染状況も考えて短時間での協議ということですので、そのあたりをご承知おきいただき、ご審議につきましてよろしく願いいたします。</p>

発言者	発言内容
事務局	<p>それでは、市長から当審議会に対して、総合計画の策定について諮問させていただきます。</p> <p>恐れ入りますが、会長、市長、また委員の皆様、前の方へ移動をお願いいたします。</p>
4 諮問	
市長	<p>第2次掛川市総合計画基本構想改定(案)について</p> <p>本市における総合的かつ計画的な行政運営の指針となる第2次掛川市総合計画基本構想改定(案)を策定したので、掛川市総合計画審議会条例第2条の規定により、貴審議会の意見を求めます。</p>
会長	<p>ただいま、松井市長から、第2次掛川市総合計画の基本構想の策定について諮問を受けましたので、委員の皆様のご審議をお願いいたします。</p>
5 議事	
議事1：「第2次掛川市総合計画 基本構想の改定案について」	
事務局	<資料1・2 説明>
会長	<p>12月11日の前回の審議会、12月18日の掛川市議会、それからパブリックコメントでいただいたご意見の概要と、それに対する反映状況について説明がありました。</p> <p>前回までは戦略を分野ごとに議論していましたが、今回は短時間で協議をするということと、ある程度の議論も尽くされてきているということもあり、さらに修正や検討が必要などところにつきましてご意見をいただきたいと思います。</p>
委員	<p>コロナで大変な中、掛川市の真摯な取り組みと、議論の反映につきましては本当に頭が下がる思いで拝見しております。</p> <p>戦略の前文の部分について、「地方分散の流れ」という言葉が入っていますが、前回の審議会で、委員から地方分散の流れが起こっていないという指摘があり、本文では言葉を修正していると思いますが、ここの冒頭の部分は残したままなのかご説明をいただければと思います。</p>
事務局	事務局で検討させていただきます。
会長	整合性が取れるようにというご指摘ですので、よろしくをお願いいたします。
委員	<p>今のご指摘以外、内容に関してはこれでいいと思います。</p> <p>しかし今後について、総合計画が作文に終わってしまうという自治体を往々に見かけます。例えば少子化に「積極的な」という言葉を入れたからいいというように、言葉を修正して終わりということではなく、ここに「積極的な」と入れた意味を関係者がよく理解して、すぐこの言葉を反映したアクションプランを作る、つまりこの「積極的」とはどういうことなのか、皆さんが共有している間に具体策を作るというような作業に着手できるかと思っています。そうしないと、この「積極的な」という意味は、半年もすると単なる修飾語になってしまいます。だから、今回いろいろと皆さんがご苦労して言葉を変えましたが、言葉に込めた意味をきちんと庁内あるいは市民や議会に共有して、具体策を作っていくことが重要かと思っていますので、今後の取り組みに期待したいと思います。</p> <p>もう1つ、職員へのメッセージが必要だと思います。この総合計画自体に書き込むものではありませんが、この総合計画を具体化するために、職員に対してどういうことを心がけてほしいのか、何をしてほしいのかを共有しないと、総合計画が絵に描いた餅になってしまいます。例えば、台湾のIT政策担当大臣のオードリー・タンさんが、「自発性と相互理解と共好」という3つの言葉をあげています。つまり、職員はこの総合計画の意図を理解して、自発的にできることを動く、そのためには関係者、市民、異なる立場の人など多様な人の相互理解を進めなければならない、そして相互理解を進</p>

発言者	発言内容
	めつつ共に動く、そういったメッセージを、できれば市長から職員に対して出していただくと、この総合計画が具体的に動きやすくなるのではないかと思います。
委員	<p>修正を緻密にさせていただきましたので、全体的な表現としてはこれでよいと思います。</p> <p>DXに関して、私も今回の様々な議論の中で勉強させていただきました。(7)行財政分野の行政DXについてですが、変わることで市民の皆さんが真っ先に利便性を感じられるのは、行政サービスかと思います。国もデジタル庁について盛んに言っていますし、本計画の計画期間も5年間になりますので、デジタルガバメントの基盤整備を、国と共に歩調を合わせて行っていくという意思表示を、この後の計画に、タイムスケジュールの感覚を持って進めることを期待します。それから今、市職員へのメッセージという話がありましたが、行政DXをうまく回していくためには、市民の方々の学習意欲もかなり問われてくるのではないかと思います。そういう意味では、掛川市は有望な素地、学ぶことについての素地が整っているので、全国的にも行政DXの先頭集団に入れるような気配を感じております。国のデジタル活用支援で、すでに国が直接市町に働きかけて、市民ぐるみの活用の説明会などを実施しているということを知りました。会津若松市や福井市などが先進事例として出ていましたが、掛川市も全国に先駆けるトップランナーの一人として取り組んでいただきたいと思います。</p>
委員	<p>(4)産業・経済分野のリモートワークやワーケーションにつきまして、私自身もリモートワークを主とした働き方をしており、9割以上を県外のクライアントからいただいているという状況です。今回、この総合計画自体は、主に掛川市民に向けたメッセージになるかと思いますが、将来の掛川市民、いわゆる移住者などを踏まえて、市外の方に向けたメッセージとして、こういったリモートワークやワーケーションという言葉はとてもキャッチーで刺さると思いますので、このフレーズを大切にしたいと思いました。戦略の全体を見たときに、(4)産業・経済分野の「お茶のまち」という柱のくくりの中に、リモートワークやワーケーションというフレーズが使われていることが少しもったいないかと思いました。そのため、このフレーズが、例えば(7)協働・広域・行財政分野などに使われると、市外の方から見たときも、ワーケーションのような最先端のところにも理解のあるまちという受け入れ方がされやすくなるのではないかと思います。</p>
会長	事務局として、この(4)から(7)への柱の組み直しについてはいかがですか。
事務局	現在は(4)の産業というくくりの中で、このような表現をさせていただきましたが、(7)または(5)シティプロモーション分野なども含めて、戦略の内容になじむような検討をさせていただきたいと思います。
委員	<p>皆様のいろいろな視点や知見が入って、すばらしい計画、表現になってきたと思います。</p> <p>そのよう中で、言葉で終わってしまうのが一番よくないという先ほどのご発言に共感しました。例えばDXという言葉は、やはり言葉のようになってきていますが、DXを実現することで何がよくなるのか、市にどのような利点が出るのかというところを、この後のそれぞれの計画に落とすときに具体的にさせていただければよいと思います。</p> <p>それから、行政内ですと、今やっているオペレーション、業務自体を変えていかなければならないと思います。マニュアルであるとか、場合によっては条例やルールも入ってくるかもしれませんが、ぜひそういったところも変えて、市民のためによくするという目的で、この後の細部の計画も立てるとよいと思います。往々にして、言葉が先行すると、今のままのルールを変えずに、変えられるところだけ変えていく形になっ</p>

発言者	発言内容
	てしまいますので、このすばらしいビジョンを実現するために実行していただきたいと思えます。
委員	この基本構想に書かれているDX、特に行政のDXについて、どこまでイメージをしているかを確認しておいた方がよいと思えます。先ほど国がDXを進めるから自治体もという話もありましたが、国の言うことを聞いているだけではDXは進まないで、自治体は国をさらに先行するような形で、いろいろな取り組みを示していかないとはいけません。掛川市くらいの規模・立地の自治体ができるDXであれば、他の地域でもできますので、やはり先行モデルになる必要があると思えます。例えば、国はマイナポータルを使う、マイナンバーカードを使うという手段ばかりを言っていますが、それはあくまでも手段です。何のためにということ、トヨタ自動車ではなぜを5回くらい繰り返す、そうすると本当の目的が見えてくるので、これは何のためにやるのかということ、アクションプランを作る際に庁内でディスカッションして、目的をきちんと明確にしてほしいと思えます。それから、DXは住民サービスをオンライン化したりワンストップ化したりすることではなく、その次元ではありません。それはデジタル化に過ぎません。むしろ、申請主義をやめるとということ、今コロナで困っている人が、国や自治体の支援策を得ようとする膨大な書類を用意して大変な申請をしなければならず、これがオンライン化されても何ら便利ではなく、例えば、納税情報などを見て、必要な人に必要な支援を申請なく提供するという事です。申請主義からの脱却ということは相当大変なことです、そのくらいのことをやるのがDXだという共通理解を持っていたいただければと思えます。
会長	DX導入の目的を、もう少し明確にしてほしいということだと思えます。
事務局	申請主義からの脱却ということで、これまで行政が進めてきた仕事をすべて根本から見直していくことが必要だと思えます。これから皆様にもいろいろとご意見をいただきながら、掛川市としてのDXプランを作っていくしたいと思います。
委員	パブコメの資料ですが、人口減少の現実をしっかりと考えてというご意見に対して、関係人口の増加を進めるという回答をしていましたが、関係人口は定住人口とは別のもので、人口増加にはつながりません。少子化対策であらゆる手段を講じてというような表現を入れるなど、内部でも人口増加に対する意思統一を図っていただきたいと思えます。
事務局	ここでは相対的な人口ということで関係人口の増加を書かさせていただきましたが、本当に人を増やしていくために、少子化を含めてどのようなことができるのか、再度検討したいと思えます。
委員	今回このような形で参加をし、市の総合計画がこんなにも皆様のご苦勞の上でできているということを知りました。そういったことを、市民の一人ひとりが知ること、言葉の意味、背景、思いまで伝わることで、私たち市民も何ができるのかという行動につながり、協働のまちづくりにつながると思えました。こうした思いが行動につながるよう、市からの働きかけで市民の気持ちが動くようなことができたらずごくいいと思えます。大日本報徳社の鷲山社長が、「報徳というのは地下水脈のように、表には見えないけれど地域の土地を潤しているものだ」とよくおっしゃっています。総合計画も、表には見えてこないけれど、私たち市民を支え、ベースになっているものだと思うので、こうした策定の思いをうまく伝えることができたなら、市民一人ひとりが総合計画を意識でき、希望が持てるまちになるのではないかと改めて思いました。
委員	パブリックコメントが、1か月間募集をして1件ということですが、このようなすぐ大切な、自分たちも暮らしている、自分たちも働いている掛川市に対して、ご意見

発言者	発言内容
	<p>が1件だったということはとても残念ですし、住んでいる私たち自身の意識も薄いのかと思ってしまいました。せつかくこうした大切なことをしていますし、全国的にもコロナに対してこのような計画の改定をしている所は少ないかと思しますので、市民の意識を高めるためにも、市としての発信もお願いしたいと思います。</p>
会長	<p>市民の皆様伝わっていく方策を考えていくことが、とても大事だと思います。</p>
副市長	<p>パブコメについてですが、私も件数が少ないと思いました。先ほども総合計画の次の計画で具体的に進めるということでしたが、それで終わらないように、我々行政はとにかく作ったら終わりという意識になりがちですが、そうではなく、できたものを市民に伝えていく過程で、ワークショップを活用するなど色々なやり方で一緒に考えてもらいたいと思います。行政で概要版を作って配るのは簡単なのですが、そうではなくて、もう少し意見交換をしながら内容の周知を図るような工夫が必要かと思いました。</p>
委員	<p>できれば、総合計画の内容の周知のためのワークショップにとどまらず、総合計画で大きな方向性を示した上で、具体策を庁内の職員や市民や関係者で一緒になって考えていくためのワークショップというのが非常にいいのではないかと思います。つまり、方向性はこのように示したから、あとの具体策はみんなで一緒に考えていこうという行政のメッセージを、市職員にも届けることになると思いますので、ぜひ具体策と一緒に考えるという取り組みを試していただければと思います。</p>
委員	<p>市民の代表としてこの場にいますが、言葉が市民に分かりにくいのでは、なかなか理解してもらえない市民もいるのではないかと思います。これから具体的な施策を広げていくときに、例えばDXやワーケーションといった言葉について、具体的な事例をあげて、防災についても訓練の中でDXがどのように生きてくるのかなど、どのような取り組みをするのが市民に分かるように進んでいくとよいと思います。</p> <p>全体の形としては、これでいいと思います。</p>
会長	<p>特に新しい取り組みをしますと、概念的なものが分かりにくくなってしまいますので、かみ砕いた言葉で、市民に分かりやすいように進めていただきたいと思います。</p>
委員	<p>大切なポイントとしては、2040年に12万人の人口維持を目指す、これは大変高い目標だと思います。ご承知のとおり、日本の人口はかなり急激に減少している中で、これを掛川市としてどう維持していくのかということは、豊かな生活を維持するということではありますが、人口を維持するための産業施策という観点も持ち合わせて議論を深めさせていただきたいと思います。</p>
委員	<p>この審議会に参加して、新しい未来や希望を感じることができました。</p> <p>行政DXが申請主義からの脱却につながるということ、教育においても教育DXという言葉が出てきましたが、未来の教育がどうなっていくのか、DXという言葉だけではなかなかイメージが浮かばないと思います。私たち一般市民にとっても、市がそれぞれの分野でどのように変わっていくのかということがわかると、希望につながっていくと思いました。</p> <p>それから9ページの土地利用構想の図ですが、掛川市にはいろいろなゾーンがあり、国土軸といわれるたくさんの幹線が入っていて、未来につながる都市だということがよくわかります。一方で、この会でも掛川市の工業生産額が鳥取県と同じくらいとお聞きし、今の時点でも力のある部分は市内にたくさんあると思いますが、そうした掛川が持っている良さ、お茶はもちろんそうですが、生涯学習都市宣言、報徳精神、市民力や文化力のようなもの、現在の掛川の良さをまとめたものがあるとよいと思います。</p>

発言者	発言内容
	<p>掛川市民はそういったところに誇りを持っている人が多いと思いますが、それらをきちんと示して、さらに生かして、それぞれの人が未来の夢や希望に向かって挑戦できるすごいまちだということを描けるとよいと思いました。</p>
委員	<p>文章につきましては、非常にいいものができたのではないかと思います。</p> <p>特に、健康・福祉分野におきましては、「豊か、健康、幸せ」といった言葉はとても大切で、これから私たちも一緒に歩んでいきたいと思うのですが、逆に言うと、「豊かさ、健康、幸せ」には個人差がかなり大きいもので、どれほど改善したかという評価がなかなか難しいところだと思います。その点に関しては、市民との対話や、実際に市民や地域が参加して進めていくことができればよいと思います。</p>
委員	<p>医療に関して、中東遠医療センターは中東遠地域の中核的な機能を果たしていく必要があると思います。それを支えているのは、設備などのハード面だけでなく、看護師などのエッセンシャルワーカーであり大切にしなければならないので、ソフト面を検討して、センター的な機能を果たしていくべきだと思います。</p>
会長	<p>皆様、ありがとうございました。</p> <p>本日もたくさんのご意見をいただきましたが、ご意見は事務局で検討して今後の修正をしていくこととなりますが、今日で基本構想に関する審議会は最後となりますので、私と事務局に一任をさせていただきますようお願いします。</p> <p>また、答申書については、今回の審議会のご意見を含め、私と事務局で調整して答申書案を作成し、皆様にお示しして確認していただいた上で、完成させたいと思います。</p> <p>これで基本構想ができて、来年度は、基本計画に落とし込んでいくということになりますが、そこでも皆様の色々なご意見をいただけますと幸いです。さらに具体的なことにつきましては、今日もご提案をいただきましたが、市民の皆様と一緒に考えていく、そこに行政も入っていく、そして掛川市が色々な形で皆さんが一体となって具体的な取り組みを考えていくということができたらよいと思っています。</p> <p>それでは以上で、本日の審議は終了といたします。皆様、ありがとうございました。</p>
6 その他	
市長	<p>この審議会は、短期間で集中的にいろいろなご意見をいただきました。もう少し時間をとってじっくり検討して答申をいただくのが本来ではありますが、このコロナ危機の状況において、今年度中に基本構想の部分をもとめ、次年度から具体的に基本計画を作り上げていくという考えでスタートしましたので、短い時間ではありましたが、大変素晴らしいご意見がどんどん出た審議会となり大変うれしく思っております。心より感謝を申し上げます。</p> <p>今のコロナの状況を踏まえて思っているのは、基礎自治体というのはやはり力が弱いというか、あくまでも国と県と市がある意味ではうまく一体化して、国民・県民・市民のためにいかに対策を作っていくことが大切だと感じております。特にコロナの問題もそうですが、基礎自治体には情報が十分に入りえないような法律ができています。本日もいろいろな法律や制度をどんどん変えていくというお話がありましたが、この構想をいただいて、ポストコロナ時代の市職員の働き方を含め、市のいろいろな制度やルールを見直していく必要があると思います。そのくらいやっつけていかなければ、ポストコロナ時代の素晴らしい行政サービス等々まちづくりができないのではないかと感じております。基本構想の答申をいただいた後も、基本計画・実施計画を作って具体化をしていきますので、その時にもこのメンバーの皆様にもいろいろとお知恵を出していただければ大変ありがたいと存じます。私は4月23日で市長を退任しま</p>

発言者	発 言 内 容
	<p>すが、私の退任後も、審議会の皆様のお力添えをいただければと思います。2月4日に答申をいただけるということですので、多くの市民にわかりやすく周知をして、改めて市民の皆さんや審議会のご意見を聞きながら進めていくということを、しっかり伝えていきたいと思います。短期間ではありましたが、本当にありがとうございました。そしてこれからもよろしく願いいたします。</p>
<p>7 閉会</p>	
事務局	<p>委員の皆様におきましては、今年度は最後の審議会となります。皆様、ありがとうございました。</p> <p>以上をもちまして、本日の審議会を閉会いたします。</p>